

第4節 ターゲットとニーズ

羽村市の地方創生を強力に推進していくため、計画期間に取り組む「短期的目標」と、国の長期ビジョンを参考に取り組む「中・長期的目標」に分け、ターゲットとする各年代が持つニーズを的確に把握した施策を展開していきます。

1 ターゲットの設定とニーズの明確化

人口減少の課題に真正面から向き合い、成果を挙げていくためには、「選択と集中」の考えのもと、本計画で定住につなげたいターゲットを明確に絞り込み、そのターゲットに向けて確実に情報を届けていくことが重要です。羽村市では、顕著となっている若者の流出、特に若い女性の流出を克服していくため、ターゲットを設定し、ターゲットの求めるニーズに応じた地方創生施策を展開していく必要があります。

(1) ターゲットの設定

転出を抑制し、新たな転入を求めるためのターゲット

- I 20代・30代の未婚女性
- II 市内在住の20代・30代のファミリー世帯
- III 市外在住の羽村市に縁のある20代・30代のファミリー世帯

(2) ニーズの洗い出し

本計画のターゲットに設定した20代・30代の未婚・既婚の女性の持つ、羽村市の魅力や居留意向等について、「イメージ調査」、「転入者アンケート」及び「グループミーティング」の結果から確認します。

① イメージ調査から

羽村市外に居住する方を対象に行った羽村市のイメージ調査の結果から、市外の方から見た羽村市の印象、魅力及び居留意向について確認します。

ア 羽村市の印象

羽村市に対する良いイメージとして「自然が豊かである」が約62%と高い数値を示す一方、「知名度が低い」が約40%、「都心部から遠く、交通・生活が不便である」が約23%となっています。

「水がおいしい」というイメージは約14%と若干低い数値となっています。

イ 羽村市の魅力

羽村市の魅力的な部分として「自然が豊かである」が約66%、「静かな環境である」が約31%、「地価・家賃が手ごろである」が約24%と続く一方、「道路や公園などの都市基盤が整備されている」が8.8%、「公共施設が整っている」が7.3%と低い数値となっています。

また、羽村市に魅力を感じていないとする「特にない」が約20%となっています。

ウ 羽村市への居留意向

羽村市に「住みたいと思う」と「やや住みたいと思う」を合わせた「居留意向がある」は、20代女性が10.8%、30代女性が8.9%と、両者とも低い数値となっています。

② 転入者アンケートから

過去1年以内に羽村市へ転入した方を対象に行った転入者アンケートの結果から、新しい目で見えた羽村市での生活、まちづくりに対する期待及び継続居住意向について確認します。

ア 羽村市での生活

羽村市での生活については、「街中の自然が豊かである」が約46%、「買い物が便利である」が約31%、「安全・安心に暮らせる」が約23%と続きます。

特徴的な結果として、未婚女性では「仕事と生活のどちらも充実できる」との回答が多く、既婚女性では「子育て・教育環境が整っている」が約30%です。

イ 羽村市のまちづくりに対する期待

羽村市のまちづくりに対して期待することは、未婚女性では「犯罪や交通事故防止など安全性の確保」と「徒歩や自転車での移動が容易な道路整備」が多く、「公園や水辺などのうるおいのある環境づくり」、「美しいまちなみの形成」と続きます。

一方、既婚女性では「子育てしやすいまちづくり」が約73%と高い期待を示し、「犯罪や交通事故防止など安全性の確保」が約57%、「救急、防災などの救急時体制の確保」が約28%、「公園や水辺などのうるおいのある環境づくり」が約27%と続き、22.0%が「女性や若者が活躍できる場づくり」に期待を寄せています。

ウ 羽村市での継続居住意向

羽村市での継続居住意向については、「ずっと住み続けたい」と「当分の間住みたい」を合わせた「継続居住意向がある」は、未婚女性では8割、既婚女性では9割以上と高い数値となっています。しかし、「当分の間住みたい」は、未婚女性、既婚女性とも6割以上と、時限的な居住意向が高くなっています。

③ グループミーティングから

過去5年以内に羽村市へ転入した市民を対象に行ったグループミーティングの結果から、一定期間羽村市で生活した市民の生の声から「羽村市へ移り住んで感じたこと」について確認します。

ア 羽村市の良さ

羽村市の良さについては、「おいしい水や豊かな自然があって住みやすい」、「動物公園やチューリップ畑など、他に自慢できる見所がある」、「公共施設がまとまっていて便利である」、「都心まで電車1本で行けるなど公共交通機関が整っている」、「静かで暮らしやすいコンパクトな街」等が挙げられており、コンパクトな市内に、良好な住環境と適度な自然環境が整い、ゆとり、図書館、動物公園及びスイミングセンターなどの公共施設が徒歩圏内に立地しているため利用しやすく、休日には、家族で公共施設や多摩川沿いの自然などを楽しんでいるといった意見が挙げられました。

イ 羽村市をもっと良い街に

羽村市をもっと良い街にするためにはどうすれば良いかについては、「駅前のおしゃれなカフェなどで、小さな子ども連れで集える居場所がほしい」、「子育てやお得情報など、様々な情報を共有できる環境があるといい」、「駅前に若い世代が集う居場所や、活動する場所がほしい」など、ゆとりやコミュニティセンターといった公共施設ではなく、羽村駅前の中心市街地に、おしゃ

れなカフェなど、若者やママ友達の集いの場を求める意見や、子育て情報、羽村市を代表するお土産やグルメ、利用者の視点で分かりやすい公共施設等の利用案内等を求める意見等が挙げられています。

(3) ニーズの設定

羽村市イメージ調査やグループミーティング等の結果から、ターゲットとする20代・30代の女性では、市内と市外の居住者で羽村市に対する印象は、「買い物環境」や「子育て・教育環境」などで相違する部分が多くあるほか、実際に羽村市で暮らしてみると「住み続けたい」という居住意向が格段に高くなるなど、既存の情報発信の方法では、羽村市外の方に、羽村市の魅力が届いていないことがわかります。

市内に居住する未婚女性からは「徒歩や自転車での移動が容易な道路整備」、「駅周辺の整備」などの都市基盤の整備を含めた「若者の居場所づくり」を求める意見、既婚女性からは「子育て支援施策の充実」、「女性や若者が活躍できる場づくり」、「子どもを連れて母親同士で交流できる居場所づくり」などを求める意見が挙げられています。

こうしたことから、未来の羽村市民に対して、実際に暮らしてみると分かる羽村市の魅力を確実に届ける必要があるため、既存住民が感じる暮らしやすさや子育てのしやすさといった羽村市の魅力を可視化した「はむらスタイル」を的確に発信するとともに、既存住民のニーズに応え、「はむらスタイル」の更なる充実に取り組むことで、子どもとの大切な時間を身近な環境の中で過ごすことができる羽村市の良さをより一層充実させていくことにつなげ、「家族の笑顔が生まれるまち はむら」として、羽村市の地方創生に取り組んでいきます。

(4) 羽村市の地方創生推進イメージ

羽村市が住みやすく、魅力的と感じている既存住民の声や生活スタイルである「はむらスタイル」を充実し、ターゲットに向けて情報発信していきます。

